

第2章 障がい者（児）を取り巻く状況

1 障害者手帳等所持者の状況

(1) 人口推移

本市の人口は、平成25年度以降減少傾向で推移しており、平成29年度には63,469人となっています。これを年齢三区分別人口で見ると、0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は減少していますが、65歳以上の老年人口は増加し、平成29年度で17,691人と人口の27.9%を占めており、高齢化が進行しています。

世帯数はやや増加していますが、一世帯あたり人員は2.4人となっています。

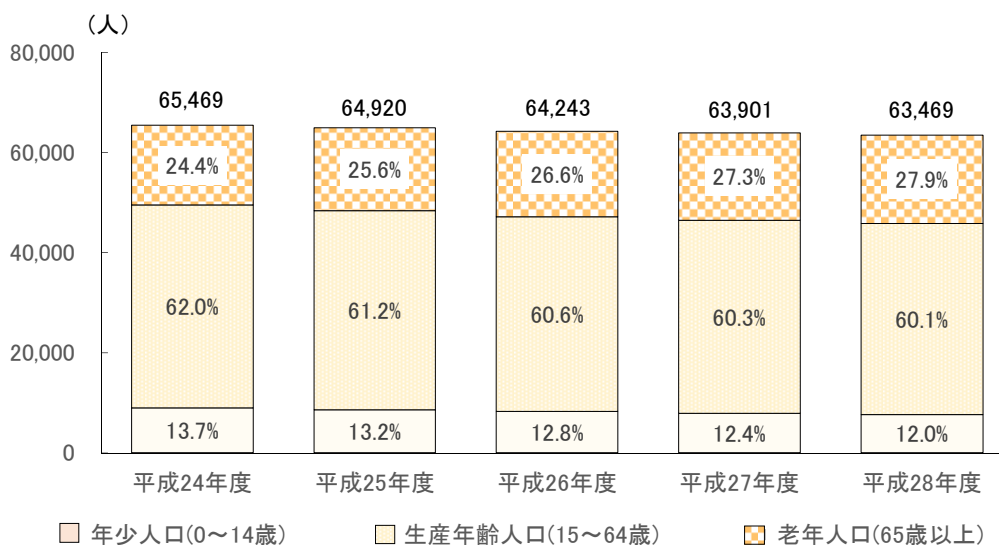
表 2-1-1 年齢三区分別人口・世帯数の推移

単位：人

区分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
人口	年少人口(0～14歳)	8,942	8,578	8,229	7,902	7,641	0.96
	生産年齢人口(15～64歳)	40,563	39,735	38,917	38,529	38,137	0.98
	老年人口(65歳以上)	15,964	16,607	17,097	17,470	17,691	1.03
	合計(人)	65,469	64,920	64,243	63,901	63,469	0.99
世帯数(世帯)		25,532	25,567	25,609	25,772	25,907	1.00
一世帯あたりの人員(数)		2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	0.99

資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

図 2-1-1 年齢三区分別人口の推移



(2) 身体障害者手帳所持者の状況

身体障害者手帳*所持者数の推移をみると、ほぼ横ばいで推移しており、平成 29 年度で 2,039 人となり、総人口に占める割合は 3.21%となっています。

障がいの程度別では、過去 5 年間の平均伸び率で 6 級が、他に比べて高くなっています。年齢区分別では、過去 5 年間の平均伸び率で 65 歳以上が、他に比べて高くなっています。

障がいの部位別では、平成 29 年度で肢体不自由が 1,089 人（53.4%）と多数を占めています。

表 2-1-2 身体障がい者手帳所持者の推移

単位：人

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	年度平均伸び率
身体障がい者手帳所持者数(人)	2,051	2,079	2,056	2,069	2,039	1.00
総人口(人)	65,469	64,920	64,243	63,901	63,469	0.99
総人口比(%)	3.13	3.20	3.20	3.24	3.21	1.01

資料：福祉課（各年 4 月 1 日現在）

表 2-1-3 障がいの程度別身体障害者手帳所持者数の推移

単位：人

程度区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	年度平均伸び率
1 級	576	581	574	566	556	0.99
2 級	308	306	298	291	288	0.98
3 級	495	510	494	491	476	0.99
4 級	450	460	455	481	478	1.02
5 級	125	122	127	129	133	1.02
6 級	97	100	108	111	108	1.03
計	2,051	2,079	2,056	2,069	2,039	1.00

資料：福祉課（各年 4 月 1 日現在）

図 2-1-2 障がいの程度別身体障害者手帳所持者数の推移

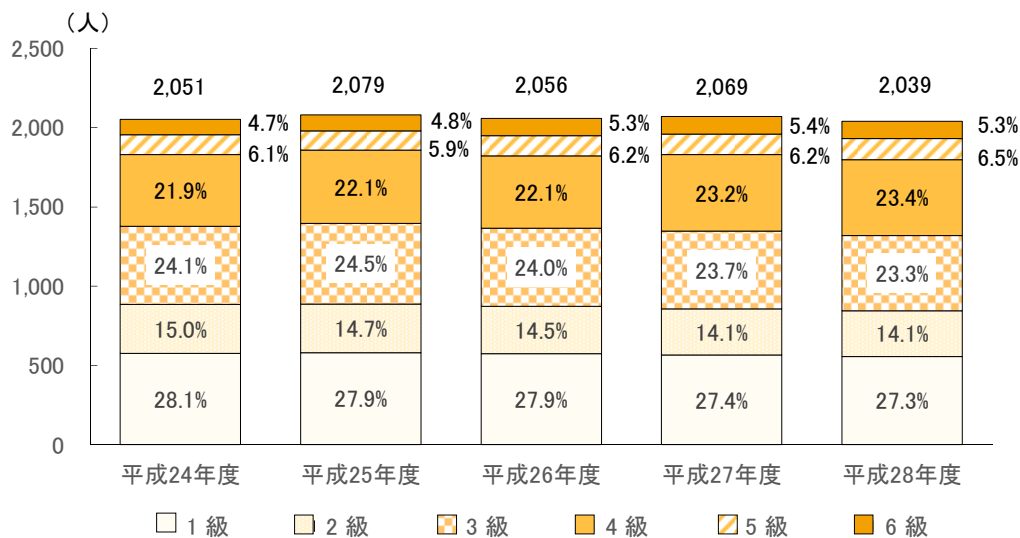


表 2-1-4 年齢区分別身体障害者手帳所持者数の推移

単位：人

年齢区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
18歳未満	43	39	39	41	41	0.99
18～39歳	105	103	89	88	89	0.96
40～64歳	520	517	514	500	477	0.98
65歳以上	1,383	1,420	1,414	1,440	1,432	1.01
計	2,051	2,079	2,056	2,069	2,039	1.00

資料：福祉課（各年4月1日現在）

図 2-1-3 年齢区分別身体障害者手帳所持者数の推移

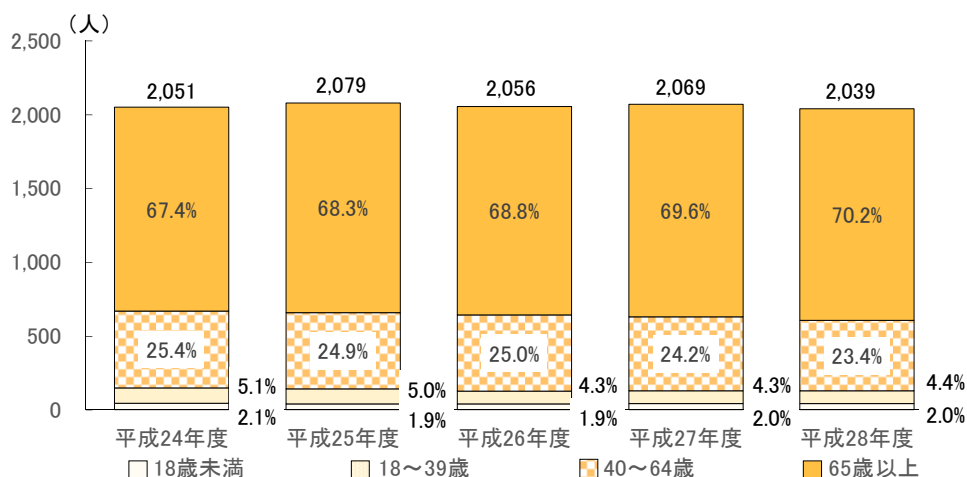


表 2-1-5 障がいの部位別身体障害者手帳所持者の推移

単位：人

年齢区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
視覚障がい	93	98	101	97	100	1.02
聴覚・平衡機能障がい	143	145	141	153	152	1.02
音声・言語・そしゃく機能障がい	24	23	26	26	25	1.01
肢体不自由	1,142	1,151	1,129	1,121	1,089	0.99
内部障がい	649	662	659	672	673	1.01
計	2,051	2,079	2,056	2,069	2,039	1.00

資料：福祉課（各年4月1日現在）

図 2-1-4 障がいの部位別身体障害者手帳所持者の推移

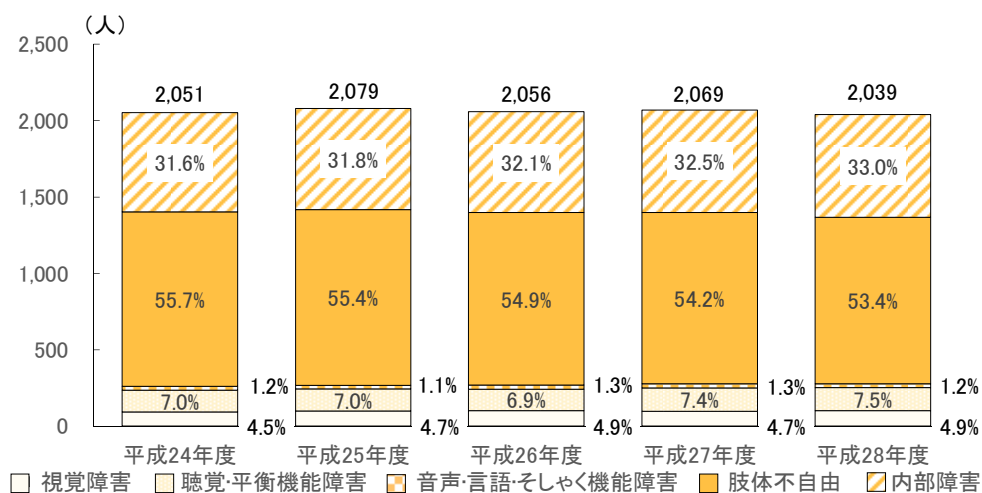


表 2-1-6 身体障害者手帳所持者数（年齢別・障がいの部位別）

単位：人

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
18歳未満	14	11	6	4	1	5	41
視覚障害	0	1	0	0	0	0	1
聴覚・平衡機能障害	1	4	2	0	0	4	11
音声・言語・そしゃく機能障害	0	0	0	0	0	0	0
肢体不自由	11	6	3	4	1	1	26
内部障害	2	0	1	0	0	0	3
18～39歳	27	19	25	8	8	2	89
視覚障害	2	1	1	0	0	0	4
聴覚・平衡機能障害	0	2	4	0	0	2	8
音声・言語・そしゃく機能障害	0	0	0	2	0	0	2
肢体不自由	11	16	12	5	8	0	52
内部障害	14	0	8	1	0	0	23
40～64歳	123	72	102	111	43	26	477
視覚障害	12	8	3	1	4	1	29
聴覚・平衡機能障害	0	8	2	2	0	7	19
音声・言語・そしゃく機能障害	0	0	2	1	0	0	3
肢体不自由	37	52	71	64	39	18	281
内部障害	74	4	24	43	0	0	145
65歳以上	392	186	343	355	81	75	1,432
視覚障害	18	23	8	4	6	7	66
聴覚・平衡機能障害	2	18	23	30	0	41	114
音声・言語・そしゃく機能障害	0	0	15	5	0	0	20
肢体不自由	92	142	214	180	75	27	730
内部障害	280	3	83	136	0	0	502
計	556	288	476	478	133	108	2,039
視覚障害	32	33	12	5	10	8	100
聴覚・平衡機能障害	3	32	31	32	0	54	152
音声・言語・そしゃく機能障害	0	0	17	8	0	0	25
肢体不自由	151	216	300	253	123	46	1,089
内部障害	370	7	116	180	0	0	673

資料：福祉課（平成 29 年 4 月 1 日現在）

(3) 療育手帳所持者の状況

療育手帳*所持者数の推移をみると、やや増加傾向にあり平成29年度で440人となっています。

障がいの程度別では、A判定（最重度・重度）が平成29年度で188人（42.7%）と多数を占めています。過去5年間の平均伸び率でB・C判定が、A判定に比べて伸びています。年齢別では、18～39歳以下、65歳以上でやや増加傾向となっています。

表 2-1-7 療育手帳所持者の推移

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
療育手帳所持者数(人)	379	385	404	426	440	1.04
総人口(人)	65,469	64,920	64,243	63,901	63,469	0.99
総人口比(%)	0.58	0.59	0.63	0.67	0.69	1.05

資料：福祉課（各年4月1日現在）

表 2-1-8 障がいの程度別療育手帳所持者数の推移

単位：人

程度区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
A判定(最重度・重度)	174	179	177	187	188	1.02
B判定(中度)	98	98	109	112	120	1.05
C判定(軽度)	107	108	118	127	132	1.05
計	379	385	404	426	440	1.04

資料：福祉課（各年4月1日現在）

図 2-1-5 障がいの程度別療育手帳所持者数の推移

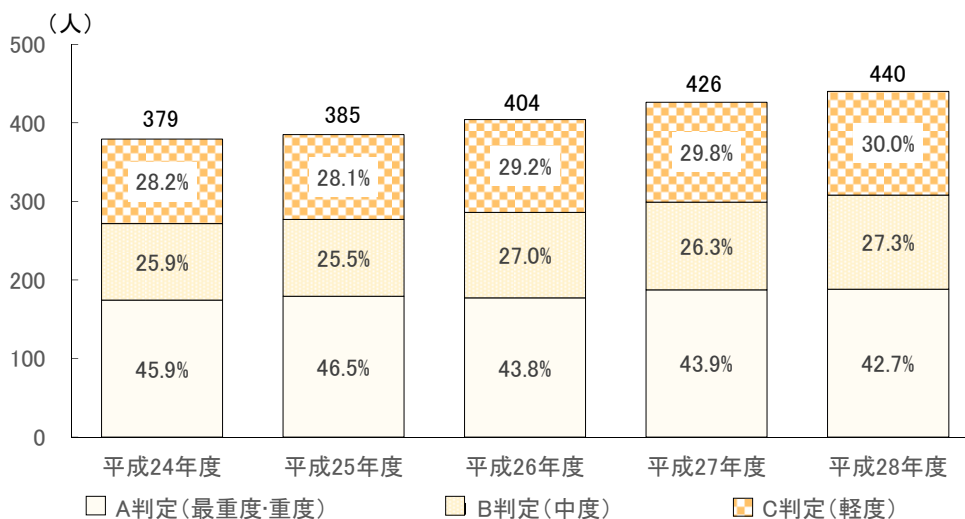


表 2-1-9 年齢区分別療育手帳所持者数の推移

単位：人

年齢区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
18歳未満	117	108	116	125	126	1.02
18～39歳	151	157	169	177	185	1.05
40～64歳	91	99	97	99	104	1.03
65歳以上	20	21	22	25	25	1.06
計	379	385	404	426	440	1.04

資料：福祉課（各年4月1日現在）

図 2-1-6 年齢区分別療育手帳所持者数の推移

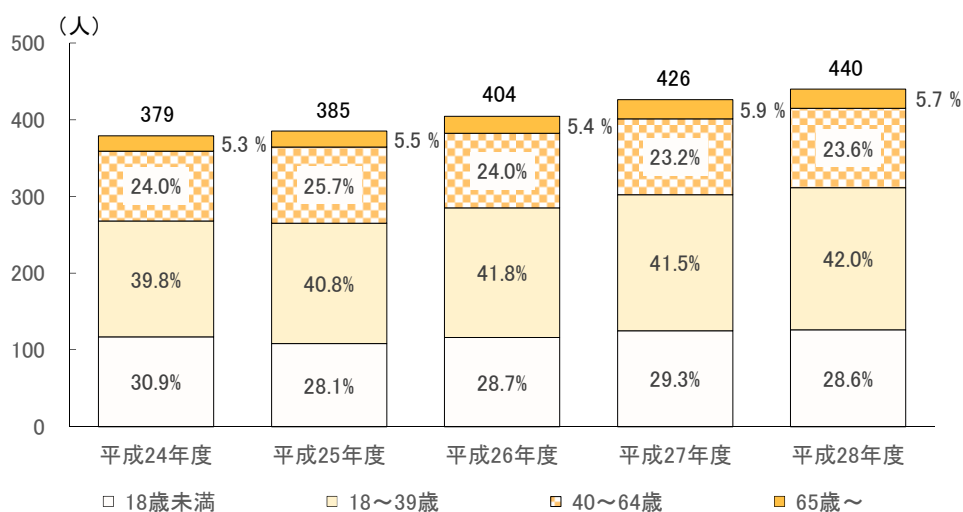


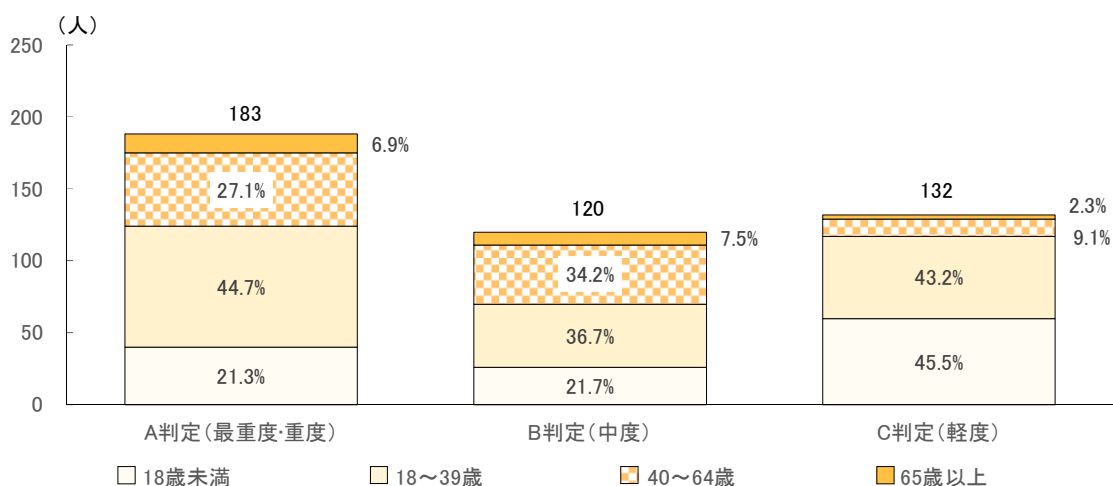
表 2-1-10 療育手帳所持者数（年齢別・障がいの程度別の現状）

単位：人

年齢区分	A判定(最重度・重度)	B判定(中度)	C判定(軽度)	計
18歳未満	40	26	60	126
18～39歳	84	44	57	185
40～64歳	51	41	12	104
65歳以上	13	9	3	25
計	188	120	132	440

資料：福祉課（平成29年4月1日現在）

図 2-1-7 療育手帳所持者数（年齢別・障がいの程度別）



(4) 精神障害者保健福祉手帳所持者の状況

精神障害者保健福祉手帳*所持者数の推移をみると、増加傾向にあり、平成29年度で513人となっています。

障がいの程度別では、2級が平成29年度で347人(67.6%)と多数を占めています。過去5年間の平均伸び率で2級が、他に比べて伸びています。

年齢別では、40～64歳が平成29年度で255人(49.7%)と多数を占めています。過去5年間の平均伸び率で18歳未満が、他に比べて伸びています。

表 2-1-11 精神障害者保健福祉手帳所持者数、自立支援医療(精神通院)受給者数の推移

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
精神障害者保健福祉手帳所持者数(人)	375	407	427	469	513	1.08
自立支援医療(精神通院)受給者数(人)	922	972	983	1,044	1,072	1.04
計(人)	1,297	1,379	1,410	1,513	1,585	1.05
総人口(人)	65,469	64,920	64,243	63,901	63,469	0.99
総人口比(%)	1.98	2.12	2.19	2.37	2.50	1.05

資料：福祉課（各年4月1日現在）

表 2-1-12 障がいの程度別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

単位：人

程度区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
1級	29	36	37	42	52	1.33
2級	267	288	300	328	347	1.37
3級	79	83	90	99	114	1.35
計	375	407	427	469	513	1.08

資料：福祉課（各年4月1日現在）

図 2-1-8 障がいの程度別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

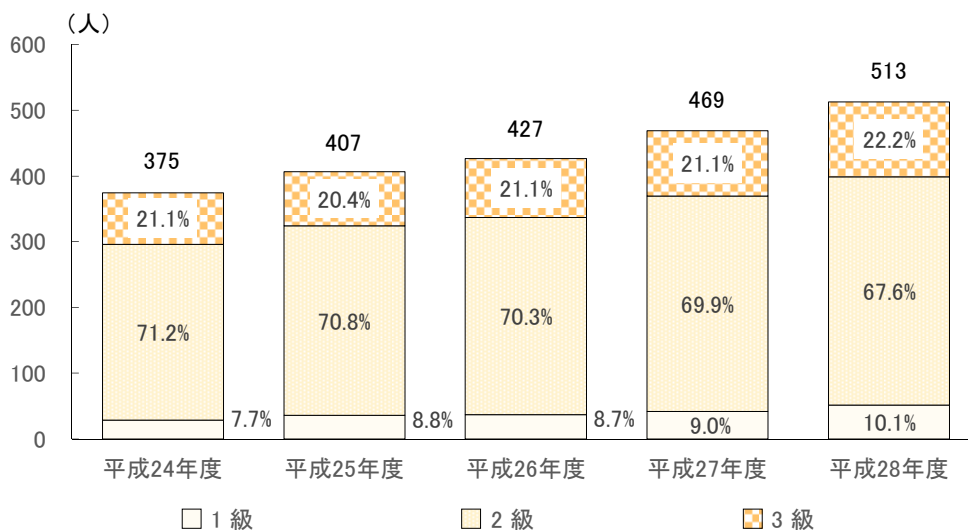


表 2-1-13 年齢区分別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

単位：人

年齢区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	年度平均伸び率
18歳未満	6	8	8	12	16	1.29
18～39歳	93	99	104	108	123	1.07
40～64歳	196	208	217	236	255	1.07
65歳以上	80	92	98	113	119	1.11
計	375	407	427	469	513	1.08

資料：福祉課（各年4月1日現在）

図 2-1-9 年齢区分別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

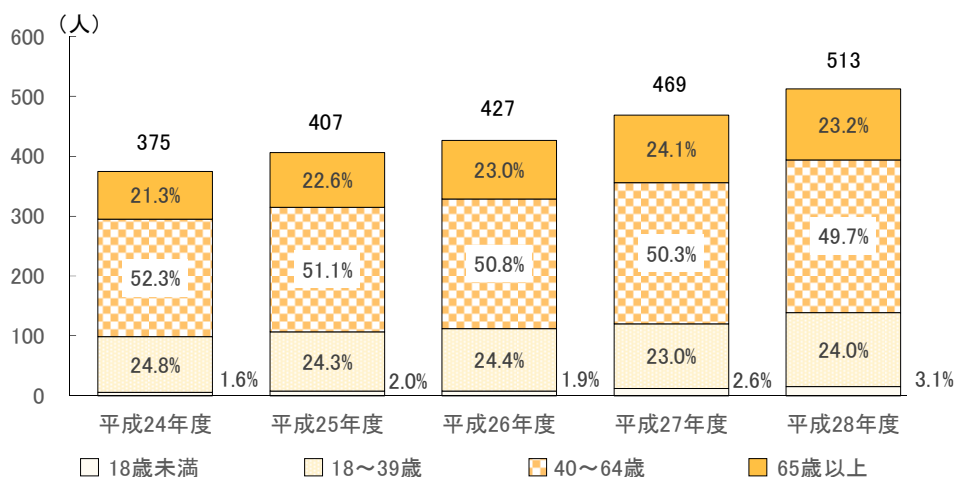


表 2-1-14 精神障害者保健福祉手帳所持者(年齢別・障がいの程度別現状)

単位：人

年齢区分	1級	2級	3級	合計
18歳未満	1	10	5	16
18～39歳	8	83	32	123
40～64歳	13	175	67	255
65歳以上	30	79	10	119
計	52	347	114	513

資料：福祉課（平成29年4月1日現在）

図 2-1-10 精神障害者保健福祉手帳所持者(年齢別・障がいの程度別現状)

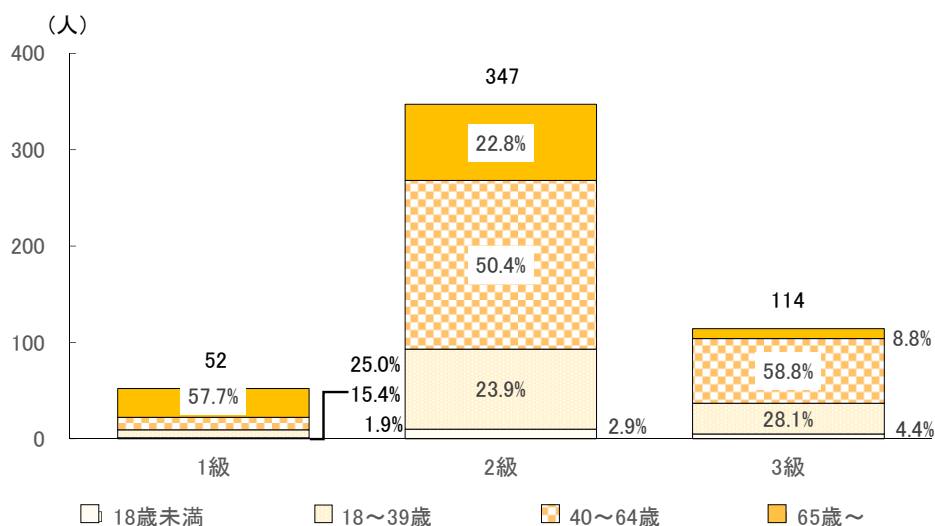


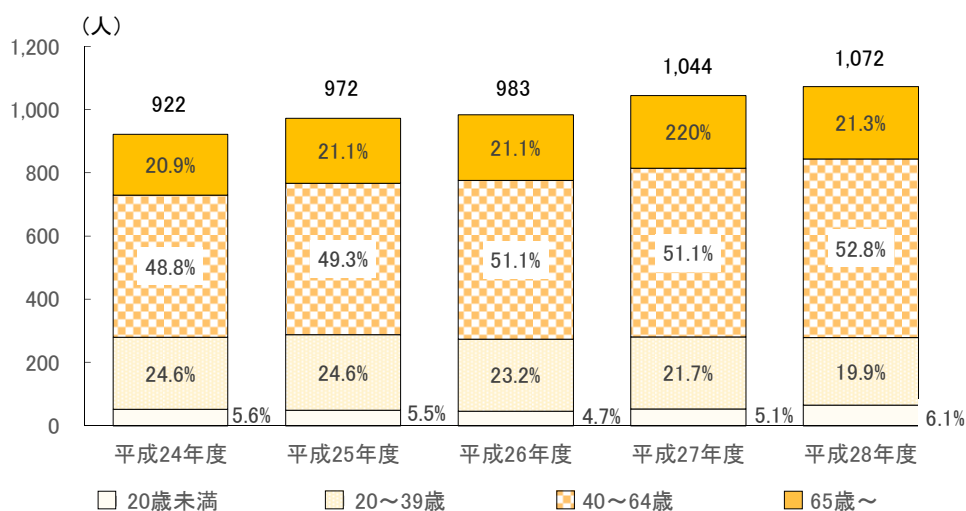
表 2-1-15 年齢区分別自立支援医療（精神通院）通院者数の推移

単位：人

年齢区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	年度平均伸び率
20 歳未満	52	49	46	53	65	1.06
20～39 歳	227	239	228	227	213	0.99
40～64 歳	450	479	502	534	566	1.06
65 歳以上	193	205	207	230	228	1.04
計	922	972	983	1,044	1,072	1.04

資料：福祉課（各年 4 月 1 日現在）

図 2-1-11 年齢区分別自立支援医療（精神通院）通院者数の推移



(5) 難病患者の状況

難病患者数の推移をみると、緩やかな増加傾向にあり、平成 28 年度末で 430 人となっています。

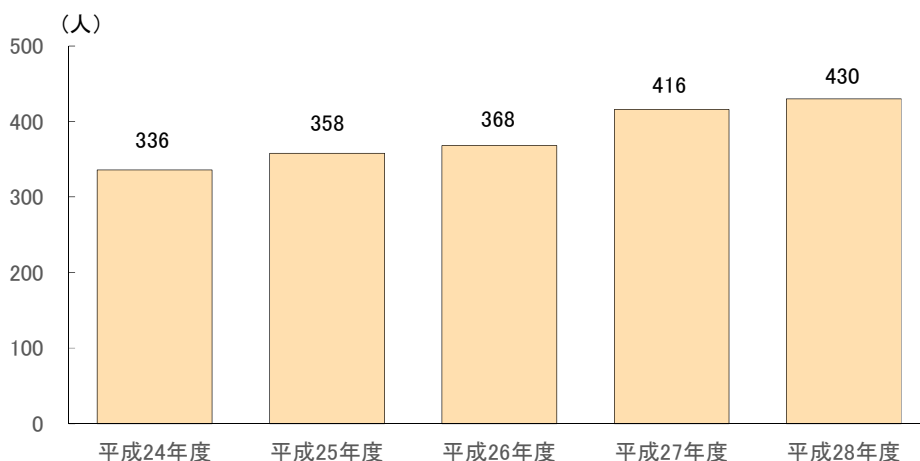
表 2-1-16 難病患者数の推移

単位：人

区 分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	年度平均伸び率
難病患者数	336	358	368	416	430	1.07

資料：津島保健所（各年度末現在）

図 2-1-12 難病患者数の推移



2 障がい者（児）の社会参加の現状

（1）就学の状況

① 小学校就学前の障がい児の教育・保育

各施設の通園児数は以下のとおりとなっています。

表 2-2-1 市内保育所（園）障がい児保育数の推移

単位：人

	保育所（園）名	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
公立	共存園保育所	4	4	4	3	4
	新開保育園	7	6	6	5	3
	神島田保育園	6				
	小 計	17	10	10	8	7
私立	神島田保育園		3	2	0	1
	東愛宕保育園	0	0	0	0	0
	神守保育園	1	1	0	2	3
	蛭間保育園	0	1	1	0	0
	神守南部保育園	0	1	1	2	2
	三和第一保育園	1	3	3	3	1
	三和第二保育園	0	0	0	0	1
	藤浪保育園	2	1	1	0	0
	唐臼保育園	2	2	2	1	4
	昭和幼稚園					1
	小 計	6	12	10	8	13
計		23	22	20	16	20

資料：子育て支援課（各年 4 月 1 日現在）

② 小・中学校での障がい児教育

特別支援学級は平成 29 年度で小学校に 21 学級、中学校に 8 学級あり、112 人の児童・生徒が通学しています。

表 2-2-2 市内の小学校・中学校の特別支援学級数、在籍者数の推移

学校名	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	学級数 (学級)	在籍者数 (人)	学級数 (学級)	在籍者数 (人)	学級数 (学級)	在籍者数 (人)	学級数 (学級)	在籍者数 (人)	学級数 (学級)	在籍者数 (人)
東小学校	2	10	2	15	4	19	4	19	4	16
西小学校	2	8	2	7	2	7	2	8	2	7
南小学校	2	10	2	10	2	9	2	10	2	9
北小学校	2	7	2	6	2	7	2	8	2	7
神守小学校	2	8	2	8	2	10	2	6	2	6
蛭間小学校	2	3	2	3	2	5	3	6	3	8
高台寺小学校	1	2	1	2	1	3	2	3	2	8
神島田小学校	2	9	3	16	3	18	4	18	4	23
小計	15	57	16	67	18	78	21	78	21	84
天王中学校	1	3	2	8	3	8	3	6	2	8
藤浪中学校	2	7	2	6	2	5	2	7	2	5
神守中学校	2	7	2	6	2	4	2	3	2	3
暁中学校	2	6	2	4	2	6	2	6	2	12
小計	7	23	8	24	9	23	9	22	8	28
計	22	80	24	91	27	101	30	100	29	112

資料：学校教育課（各年 5 月 1 日現在）

表 2-2-3 特別支援学級の状況

区 分	学級数 (学級)	小学校在籍者数(人)						計(人)
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
知的障がい	9	5	4	8	7	8	6	38
情緒障がい	10	4	13	7	9	9	1	43
肢体不自由	2	0	1	1	1	0	0	3

区 分	学級数 (学級)	中学校在籍者数(人)			計(人)
		1 年	2 年	3 年	
知的障がい	4	4	0	7	11
情緒障がい	4	5	8	4	17

資料：学校教育課（平成 29 年 4 月 1 日現在）

(2) 障がい者雇用の状況

① 障がい者雇用状況

「障害者の雇用の促進等に関する法律」において、障がい者雇用率（法定雇用率）の確保は平成30年4月より一般企業で2.2%以上、地方公共団体で2.5%以上とされています。

しかし、平成28年度の障がい者雇用率（法定雇用率）の状況は、1.64%となっており、津島公共職業安定所（ハローワーク）管内での実雇用率は県及び全国と比べ、大幅に下回っています。

表 2-2-4 民間企業の障がい者雇用状況

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
企業数(企業)	141	179	179	188	190
算定基礎労働者数(人)	22,972	22,374	25,879	27,335	28,037
雇用障がい者数(人)	384	428	483	500	460
実雇用率(%)	1.67	1.69	1.87	1.83	1.64
未達成企業の割合(%)	53.9	57.5	52	46.8	45.3
愛知県の雇用率(%)	1.61	1.68	1.74	1.81	1.85
全国の雇用率(%)	1.69	1.76	1.82	1.88	1.92

資料：津島公共職業安定所（ハローワーク）（各年6月1日現在）

表 2-2-5 市職員の障がい者雇用状況

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市長部局	対象職員数 (人)	558	601	591	694.5	623
	障がい者数 (人)	11.0	10.0	13.0	13.5	14.5
	雇用率(%)	1.97	1.66	2.20	1.94	2.33
教育委員会	対象職員数 (人)	32	37	31	31	32
	障がい者数 (人)	1.0	1.0	2.0	2.0	4.0
	雇用率(%)	3.13	2.70	6.45	6.45	12.50
全体の雇用率(%)		1.91	1.64	2.29	2.30	2.67

資料：人事秘書課（各年6月1日現在）

3 障がい者(児)への生活支援の現状

(1) 保健・医療・福祉サービス

① 保健・医療サービス

ア 乳幼児健康診査

乳幼児健康診査の受診状況をみると、4か月児健康診査はほぼ98%で推移していますが、1歳6か月児健康診査は97%前後、3歳児健康診査は96%前後で推移しています。

表 2-3-1 乳幼児健康診査実施状況

区 分		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
4 か月児 健康診査	対象者数 (人)	406	421	414	364	361
	受診者数 (人)	399	408	408	355	358
	受診率(%)	98.3	96.9	98.6	97.5	99.2
1 歳 6 か月児 健康診査	対象者数 (人)	492	439	391	434	381
	受診者数 (人)	463	425	385	416	378
	受診率(%)	94.1	96.8	98.5	95.9	99.2
3 歳児 健康診査	対象者数 (人)	573	537	435	417	428
	受診者数 (人)	532	516	426	399	416
	受診率(%)	92.8	96.1	97.9	95.7	97.2

資料：健康推進課（各年度末現在）

イ 医療給付

医療給付状況は、以下のようになっています。

表 2-3-2 育成・更生医療給付状況

単位：人

区 分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
育成医療受給者数	15	12	8	3	5
更生医療受給者数	79	72	64	59	66

資料：福祉課（各年4月1日現在）

表 2-3-3 障害者・精神障害者医療給付状況

単位：人

区 分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
障害者医療受給者数	684	688	686	677	665
精神障害者医療受給者数	954	986	977	929	999

資料：保険年金課（各年度末現在）

② 各種手当の支給

各種手当の支給状況は、以下のようになっています。

表 2-3-4 各種手当の支給状況

単位：人

区 分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
特別障害者手当	25	27	26	26	19
障害児福祉手当	33	33	30	24	25
在宅重度障害者手当	639	607	586	566	567
市心身障がい者手当	2,258	2,303	2,322	2,394	2,394

資料：福祉課（各年 4 月 1 日現在）

4 アンケートでみる障がい者（児）の状況

(1) アンケート調査の実施概要

①調査の目的

障害者総合支援法が施行され、障がい福祉サービスに関する3年間の実施計画的位置づけの障がい福祉計画を新たに策定することにあわせ、その基本となる障がい者計画を見直すことを目的とします。

②調査対象

津島市内在住の障害者手帳所持者（発達障がい、高次脳機能障がいのある人を含む。）の中から無作為に抽出した 1,000 人

③調査期間

平成 29 年 8 月 28 日から平成 29 年 9 月 20 日


④調査方法

郵送による配布・回収

⑤回収状況

配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
1,000通	495通	49.5%	473通	47.3%

⑥調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものに  網かけをしています。（無回答を除く）

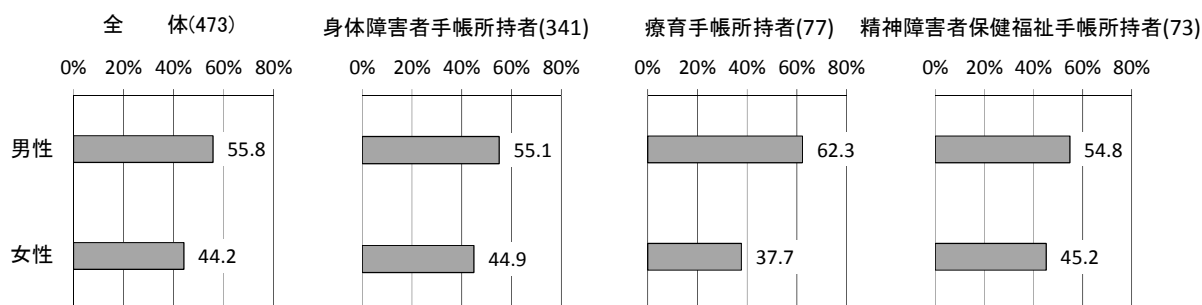
(2) アンケート調査結果（一部抜粋）

① 基本属性

Q. 性別を教えてください。

全体では「男性」の割合が55.8%、「女性」の割合が44.2%となっています。

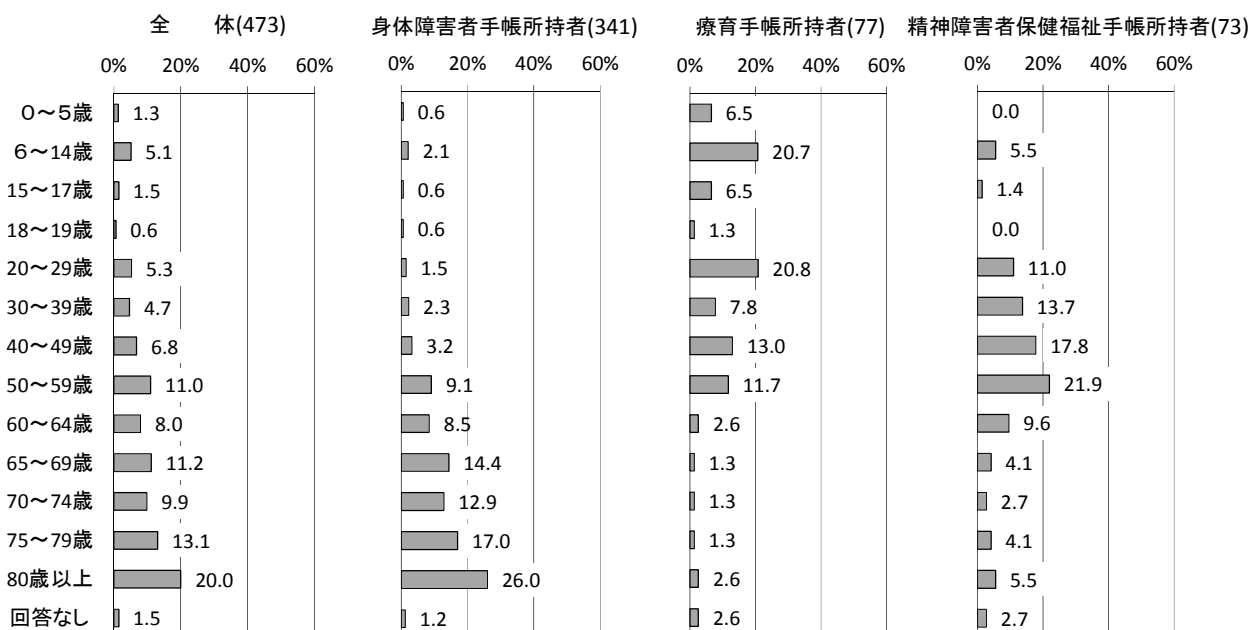
療育手帳所持者では「男性」が62.3%、「女性」は37.7%となっており、全体と比べて若干男性の割合が多くなっています。



Q. 年齢を教えてください。（平成29年8月1日現在）

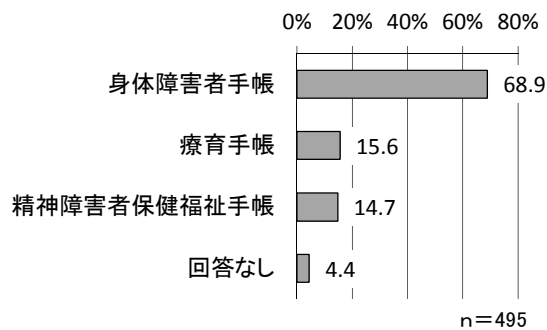
全体では「18歳未満」の割合が7.9%、「18～64歳」の割合が36.4%、「65歳以上」の割合が54.2%となっています。

障がい別でみると、身体障害者手帳所持者は「65歳以上」の割合が70.3%と最も多く、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者は「18～64歳」の割合がそれぞれ57.2%、74.0%と最も多くなっています。



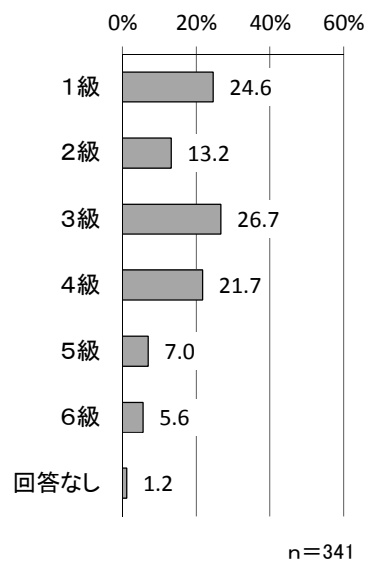
Q. 次のどの障害者手帳を所持していますか。【複数回答】

身体障害者手帳所持者が 68.9%と最も多くなっています。



Q. 身体障害者手帳の等級は何級ですか。

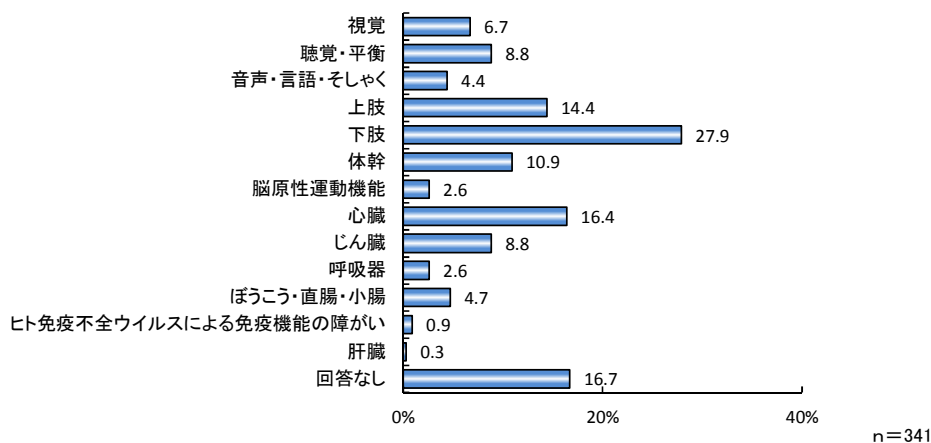
身体障害者手帳の等級は「3級」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「1級」の割合が 24.6%となっています。



Q. 身体障害者手帳に記載されている障がい名をすべてお答えください。

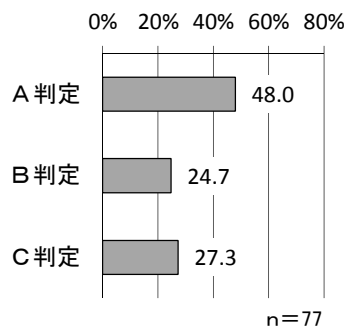
【複数回答】

身体障がいの部位は「下肢」の割合が27.9%と最も高く、次いで「心臓」の割合が16.4%、「上肢」の割合が14.4%となっています。



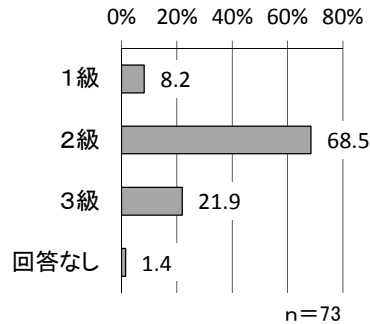
Q. 療育手帳の判定はどれですか。

「A判定」の割合が48.0%と最も高く、次いで「C判定」の割合が27.3%、「B判定」の割合が24.7%となっています。



Q. 精神障害者保健福祉手帳の等級は何級ですか。

「2級」の割合が68.5%と最も高く、次いで「3級」の割合が21.9%、「1級」の割合が8.2%となっています。

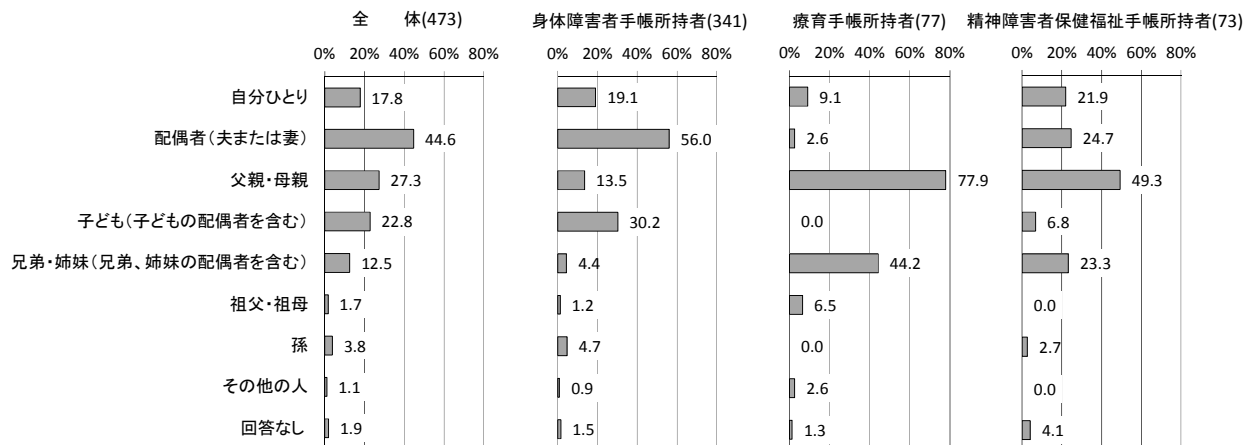


②暮らしについて

Q. あなたは、ひとりで住んでいますか、それとも誰かと住んでいますか。

【複数回答】

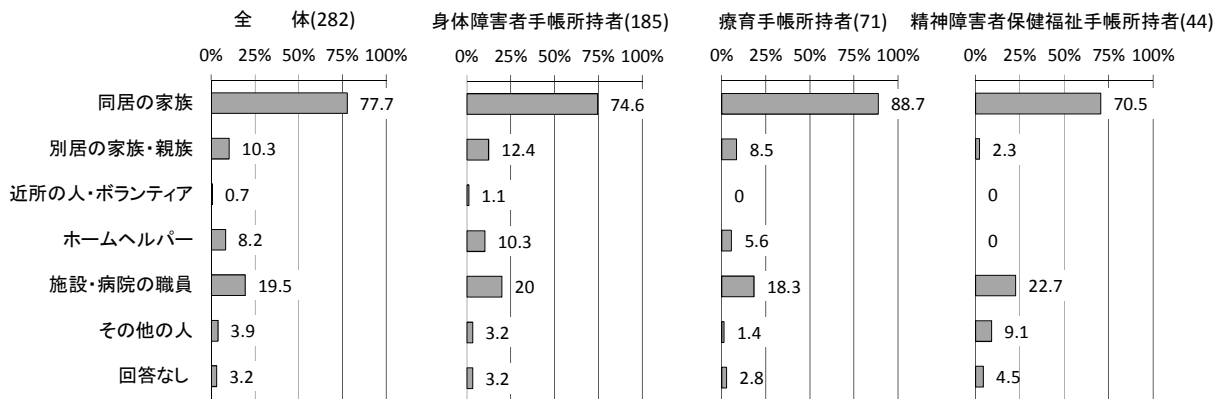
全体では「配偶者」の割合が44.6%と最も高く、次いで「父親・母親」の割合が27.3%、「子ども」の割合が22.8%となっています。療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者では「父親・母親」の割合が最も高く、それぞれ77.9%、49.3%となっています。



③介助者について

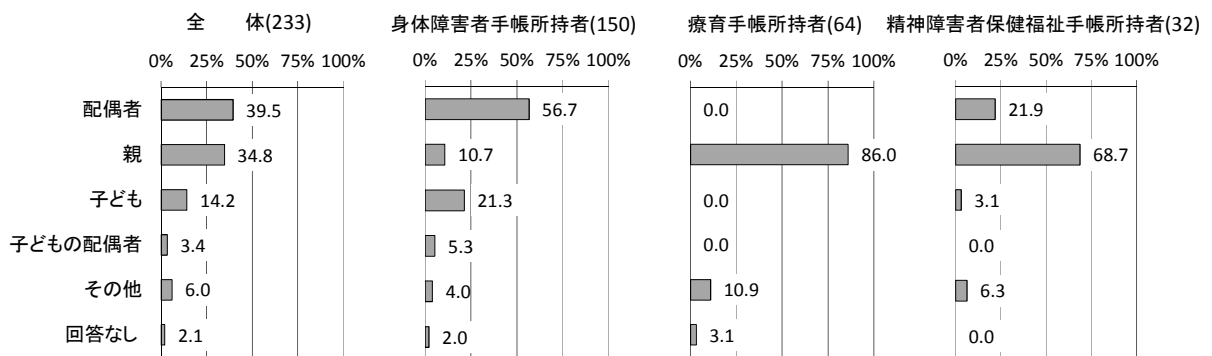
Q. 介助する人はどなたですか。【複数回答】

全体で「同居の家族」が77.7%と最も多い割合となりました。
障がい別にみても「同居の家族」が最も高い割合となっています。



Q. 主に介助する家族の続柄は何ですか。

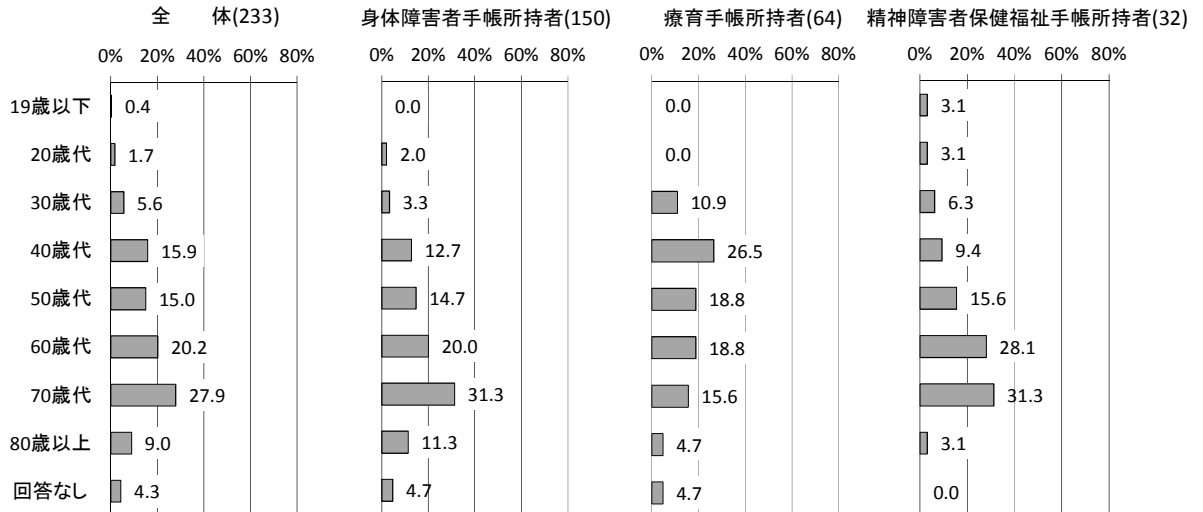
全体では「配偶者」の割合が39.5%と最も高く、次いで「親」の割合が34.8%、「子ども」の割合が14.2%となっています。療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者では「親」の割合が最も高く、それぞれ86.0%、68.7%となっています。



Q. ※主に介助する家族の年齢をお書きください。

全体では「70歳代」の割合が27.9%と最も高く、次いで「60歳代」が20.2%、「40歳代」が15.9%との順になっています。

療育手帳所持者では「40歳代」の割合が最も高く26.5%となっています。

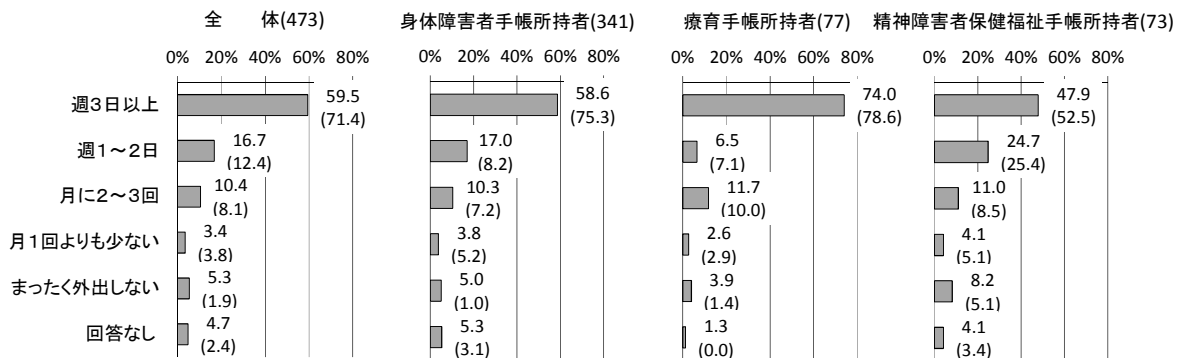


④外出頻度について

Q. 普段どのくらい外出しますか。

全体では「週3日以上」の割合が59.5%と最も高く、次いで「週1～2日」が16.7%、「月に2～3回」が10.4%となっています。障がい別でも「週3日以上」の割合が最も高いですが、療育手帳所持者の割合が74.0%と最も高くなっています。

なお、65歳未満の障害者手帳所持者では、全体では「週3日以上」の割合が71.4%、身体障害者手帳所持者では75.3%と非常に高くなっています。



※ () 内は、65歳未満の障害者手帳所持者の数値

⑤外出する上での困りごと

Q. 外出する上で、困ることは何ですか。【複数回答】

身体障害者手帳所持者では「道路、公共交通機関、施設などがバリアフリー*に改善されていない」の割合が17.1%、「障がい者用のトイレが整備されていない」が14.7%と他の障がいに比べて高くなっています。

療育手帳所持者では「介助者などがいないと一人では外出が困難」の割合が53.5%と他の障がいに比べて非常に高くなっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では「人の目が気になる」の割合が36.1%、「外出するのにお金がかかる」が24.6%と、こちらも他の障がいに比べて非常に高くなっています。

(単位:%)

	全 体	介助者などがいないと一人では外出が困難	必要ときに介助が得られない	道路、公共交通機関、施設などがバリアフリーに改善されていない	歩道が狭く、車の通行に危険を感じる	急勾配の道が多いため移動が困難	道路や歩道に電柱、放置自転車などの障害物が多く危ない	障がい者用のトイレが整備されていない
全 体	100.0	29.8	14.6	13.9	16.8	3.4	10.0	12.0
身体障害者手帳所持者	100.0	28.0	15.4	17.1	17.1	4.1	9.9	14.7
療育手帳所持者	100.0	53.5	18.3	4.2	16.9	2.8	7.0	8.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	100.0	16.4	6.6	9.8	14.8	0.0	13.1	3.3

	外出に必要な情報が得られない	視覚・聴覚の障がいに配慮した案内表示やアナウンスなどのサービスが適切でない	障がいのある人のための表示やマークが普及していない	人の目が気になる	外出するのにお金がかかる	その他	特に困ることはない	回答なし
全 体	4.9	6.6	9.0	14.1	13.2	7.1	31.2	6.8
身体障害者手帳所持者	4.4	8.5	9.9	8.9	10.6	7.5	34.5	6.1
療育手帳所持者	7.0	2.8	4.2	19.7	12.7	4.2	22.5	8.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	3.3	1.6	9.8	36.1	24.6	9.8	21.3	6.6

⑥日中の過ごし方について

Q. 日中、主に何をしていますか。

全体では「自宅にいる」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「一般就労している」が 13.3%、「専業主婦・専業主夫」の割合が 12.9%となっています。

「自宅にいる」の割合は身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者でも最も高い割合になっています。

療育手帳所持者では「学校、幼稚園・保育園に通学・通園している」が 28.5%、「就労支援施設で働いている」が 23.4%と他の障がい者に比べて割合が高くなっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では「施設入所・医療機関に入院している」「デイケアに通っている」の割合が、他の障がい者に比べて高くなっています。

なお、65歳未満の障害者手帳所持者では、全体では「学校、幼稚園・保育園に通学・通園している」が 16.7%、「一般就労している」が 21.1%、「就労支援施設で働いている」が 13.4%と、すべての年齢で集計した場合に比べて高くなっています。

(単位:%)

	全 体	学校、幼稚園・保育園に通学・通園している	障がい児通所施設に通所している	職業の訓練をしている	一般就労している	就労支援施設(就労継続支援・就労移行支援)で働いている
全 体	100.0 (100.0)	7.4 (16.7)	2.1 (4.3)	0.2 (0.5)	13.3 (21.1)	6.3 (13.4)
身体障害者手帳所持者	100.0 (100.0)	3.2 (11.3)	0.9 (3.1)	0.0 (0.0)	15.0 (33.0)	2.1 (7.2)
療育手帳所持者	100.0 (100.0)	28.5 (31.5)	11.7 (11.4)	1.3 (1.4)	9.1 (10.0)	23.4 (22.9)
精神障害者保健福祉手帳所持者	100.0 (100.0)	6.8 (8.5)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	6.8 (8.5)	12.3 (15.3)

	施設でサービス、生活介護を受けている	デイケアに通っている	専業主婦・専業主夫	施設入所・医療機関に入院している	自宅にいる(自宅で療養している等)	回答なし
全 体	4.4 (3.8)	7.6 (2.9)	12.9 (7.7)	7.0 (4.3)	37.5 (24.8)	1.3 (0.5)
身体障害者手帳所持者	4.4 (2.1)	7.0 (0.0)	16.7 (12.4)	7.6 (5.2)	41.6 (24.7)	1.5 (1.0)
療育手帳所持者	6.5 (7.1)	3.9 (0.0)	1.3 (1.4)	5.2 (5.7)	9.1 (8.6)	0.0 (0.0)
精神障害者保健福祉手帳所持者	1.4 (1.7)	12.3 (10.2)	4.1 (5.1)	9.6 (6.8)	45.3 (43.9)	1.4 (0.0)

※ () 内は、65歳未満の障害者手帳所持者の数値

⑦通学等での困りごと

Q. 通園、通所、通学で困っていることは何かありますか。【複数回答】

困っていることとして、全体では「先生の障がいへの理解が足りない」「放課後・学校休日に遊べる友だちがない」の割合が並んで17.4%と最も高く、次いで「園や施設、学校が遠い」が15.2%となっています。なお、「特にない」の割合が43.5%となっています。

療育手帳所持者で困っていることとして「先生の障がいへの理解が足りない」「放課後・学校休日に遊べる友だちがない」の割合が18.8%と高くなっています。

(単位:%)

	全 体	園や施設、 学校が遠い	授業について いけない	先生の障がい への理解が 足りない	普通学級に 入れてもらえ ない	受け入れて くれる学校が 少ない
全 体	100.0	15.2	13.0	17.4	2.2	6.5
身体障害者 手帳所持者	100.0	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0
療育手帳 所持者	100.0	15.6	15.6	18.8	3.1	9.4
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	100.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

	トイレなどの設 備が配慮され ていない	学校内・施設 内・園内での 介助が十分で ない	放課後・学校 休日に遊べる 友だちが 少ない	その他	特にない	回答なし
全 体	8.7	4.3	17.4	6.5	43.5	4.3
身体障害者 手帳所持者	7.1	7.1	7.1	14.3	42.3	7.1
療育手帳 所持者	9.4	6.3	18.8	9.4	43.9	0.0
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0

⑧仕事の不安や不満ごと

Q. 現在の仕事について不安や不満はありますか。【複数回答】

不安や不満として、全体では「収入が少ない」の割合が28.0%と最も高く、次いで「障がいに対する配慮や意識が低い」が21.5%となっています。一方、「特にない」の割合が39.8%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では「収入が少ない」の割合が50.0%、「人間関係がよくない」、「将来性がない」の割合が21.4%と他の障がいに比べて高くなっています。

(単位:%)

	全 体	職場の設備に 支障がある	通勤に支障が ある	障がいや病気の 状況に適さ ない	技術が活かせ ない	人間関係がよ くない	将来性がない
全 体	100.0	7.5	6.5	3.2	2.2	10.8	9.7
身体障害者 手帳所持者	100.0	6.9	5.2	1.7	1.7	6.9	6.9
療育手帳 所持者	100.0	12.0	8.0	4.0	0.0	12.0	8.0
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	100.0	7.1	7.1	7.1	7.1	21.4	21.4

	収入が少ない	労働時間が長 い	障がいに対す る配慮や意識 が低い	職場の身分が 不安定である	その他	特にない	回答なし
全 体	28.0	4.3	21.5	5.4	5.4	39.8	9.7
身体障害者 手帳所持者	20.7	5.2	20.7	6.9	0.0	50.0	8.6
療育手帳 所持者	32.0	4.0	16.0	4.0	12.0	32.0	16.0
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	50.0	0.0	28.6	0.0	14.3	21.4	0.0

⑨不安なときや困ったときなどの相談先

Q. 不安なときや困ったときなどの相談先はどちらですか。【複数回答】

全体では「家族や親族」の割合が70.6%と最も高く、次いで「医師・看護師・相談員など病院の職員」が35.3%、「福祉施設・サービス事業所の職員」が25.6%の順になっています。

障がい別にみても「家族や親族」が最も高い割合になっています。

(単位:%)

	全 体	家族や親族	同じ障がい・ 病気の人	友人・知人	民生委員・ 児童委員	役所・保健所 など行政の 職員	園や学校の 職員
全 体	100.0	70.6	8.5	19.0	1.3	10.6	3.8
身体障害者 手帳所持者	100.0	73.6	7.0	17.9	1.5	12.0	1.5
療育手帳 所持者	100.0	67.5	9.1	24.7	0.0	6.5	16.9
精神障害者 保健福祉 手帳所持者	100.0	57.5	13.7	20.5	1.4	8.2	5.5

	医師・看護師・ 相談員など 病院の職員	福祉施設・サ ービス事業所 の職員	その他	相談できない	相談する人は いない	回答なし
全 体	35.3	25.6	3.6	4.0	5.1	3.4
身体障害者 手帳所持者	34.3	20.8	3.2	1.5	2.1	3.8
療育手帳 所持者	26.0	53.2	3.9	6.5	6.5	0.0
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	52.1	23.3	4.1	9.6	5.5	4.1

⑩福祉情報等の入手先

Q. あなたは、現在、どのような方法で福祉などの情報を得ていますか。

【複数回答】

全体では「家族や親族」の割合が28.3%と最も高く、次いで「市の広報や回覧」が28.1%、「福祉施設・サービス事業所の職員」が24.1%の順になっています。

療育手帳所持者では「福祉施設・サービス事業所の職員」の割合が46.8%と最も高く、他の障がいと比べても高くなっています。

(単位:%)

	全 体	家族や親族	同じ障がい・ 病気の人	友人・知人	民生委員・ 児童委員	役所・保健所 など行政の 職員	園や学校の 職員	医師・看護師・ 相談員など 病院の職員
全 体	100.0	28.3	9.9	11.0	0.4	16.7	2.1	15.6
身体障害者 手帳所持者	100.0	28.2	8.2	9.4	0.6	15.5	0.6	13.8
療育手帳 所持者	100.0	35.1	16.9	15.6	0.0	23.4	10.4	15.6
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	100.0	24.7	11.0	15.1	0.0	17.8	2.7	27.4

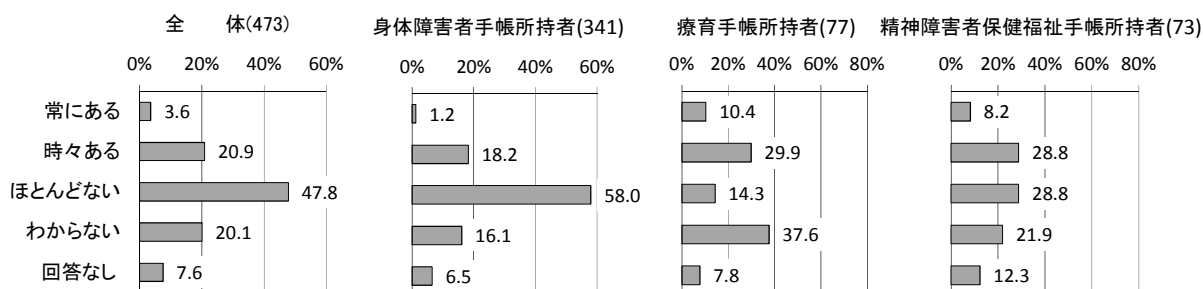
	市の広報や 回覧	障がい者団体 などの機関誌	福祉施設・サ ービス事業所 の職員	新聞やテレ ビ・ラジオ	パソコンや携 帯電話による インターネット	その他	特になし	回答なし
全 体	28.1	3.8	24.1	18.2	9.7	2.1	16.7	5.5
身体障害者 手帳所持者	30.8	3.2	21.1	19.6	7.6	2.1	16.1	6.2
療育手帳 所持者	20.8	9.1	46.8	11.7	11.7	2.6	11.7	2.6
精神障害者 保健福祉手帳 所持者	20.5	2.7	21.9	16.4	19.2	2.7	17.8	4.1

⑪差別や偏見について

Q. 日常生活の中で、偏見の目で見られたり、差別を受けたと感じることはありますか。

全体では「ほとんどない」の割合が47.8%と最も高くなっています。

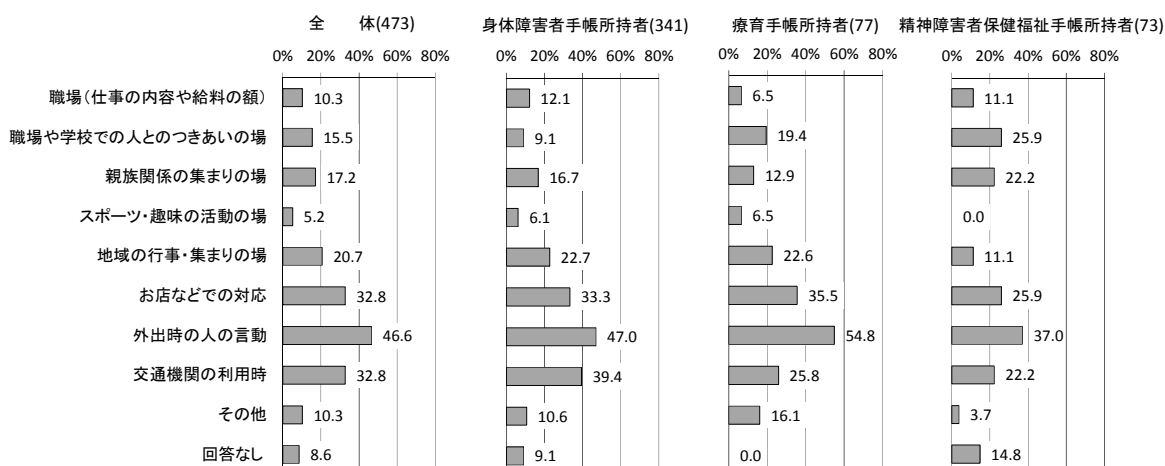
一方、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者では「常にある」「時々ある」の割合が全体と比べて高めになっています。



Q. 偏見や差別は、どのような場面で受けていると感じますか。【複数回答】

全体では「外出時の人の言動」の割合が46.6%と最も高く、次いで「お店などでの対応」「交通機関の利用時」が32.8%となっています。

療育手帳所持者でも「外出時の人の言動」の割合が54.8%と最も高く、他の障がいと比べても高くなっています。精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場や学校での人とのつきあいの場」の割合が25.9%、「親族関係の集まりの場」が22.2%と他の障がいと比べて高くなっています。



⑫成年後見制度の認知度について

Q. 成年後見制度についてご存じですか。

全体では「名前も内容も知らない」の割合が36.4%と最も高くなっています。また、「名前も内容も知っているが、制度は利用していない」の割合が31.7%、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が23.3%となっています。なお、「すでに成年後見制度を利用している」の割合は0.4%でした。

身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者では「名前も内容も知っているが、制度は利用していない」の割合が精神障害者保健福祉手帳所持者に比べて高く、身体障害者手帳所持者で33.7%、療育手帳所持者で37.6%となっています。

(単位:%)

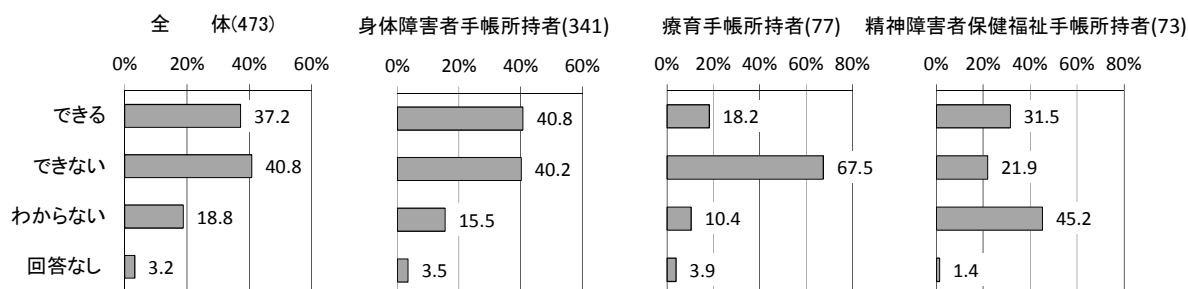
	全 体	すでに成年後見制度を利用している	名前も内容も知っているが、制度は利用していない	名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	回答なし
全 体	100.0	0.4	31.7	23.3	36.4	8.2
身体障害者手帳所持者	100.0	0.0	33.7	22.6	34.6	9.1
療育手帳所持者	100.0	2.6	37.6	20.8	33.8	5.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	100.0	0.0	15.1	32.9	45.2	6.8

⑬災害時の避難について

Q. 火事や地震などの災害時にひとりで避難できますか。

全体では「できない」の割合が40.8%と最も高く、「できる」の37.2%を上回っています。

療育手帳所持者では「できない」の割合が67.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「わからない」の割合が45.2%と、他の障がい者に比べて高くなっています。



⑭災害時の困りごと

Q. 地震などの災害時に、どのようなことに困ると思いますか。【複数回答】

全体では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境のこと」の割合が50.3%と最も高く、次いで「避難場所での共同生活に適應できるか不安」が47.4%、「避難場所まで行けないこと」が41.4%の順になっています。

身体障害者手帳所持者でも「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境のこと」の割合が51.3%と最も高くなっています。

療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者では「避難場所での共同生活に適應できるか不安」の割合がそれぞれ74.0%、68.5%と最も高く、身体障害者手帳所持者に比べて高くなっています。

(単位:%)

	全 体	避難場所を知らないこと	避難場所まで行けないこと	避難場所で医療的ケアなどが受けられるかどうかわからないこと	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境のこと
全 体	100.0	18.8	41.4	39.3	50.3
身体障害者手帳所持者	100.0	15.0	44.0	37.8	51.3
療育手帳所持者	100.0	36.4	49.4	37.7	53.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	100.0	21.9	24.7	49.3	46.6

	避難場所での共同生活に適應できるか不安	必要な情報を得られるか不安	その他	特になし	回答なし
全 体	47.4	30.9	5.5	9.7	4.0
身体障害者手帳所持者	38.4	27.3	5.3	12.9	3.5
療育手帳所持者	74.0	44.2	3.9	0.0	5.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	68.5	35.6	8.2	2.7	5.5

⑮障がい者福祉施策について

Q. 今後、特に充実すべきだと考える障がい者福祉施策は何ですか。【複数回答】

全体では「年金・手当などの経済的な支援を充実する」の割合が45.0%と最も高く、次いで「気軽に何でも相談できるような体制を充実する」が38.7%、「自宅で受けられる支援サービスを充実する」が30.7%との順になっています。

療育手帳所持者では、「施設に入所、通所して受けられる支援サービスを充実する」の割合が39.0%、「障がいのある人の生活を支えるヘルパーや職員、ボランティアを育てる」が48.1%、「地域に住む人が力を合せて、障がいのある人を支えていく体制づくりをすすめる」が29.9%と、他の障がいに比べて高くなっています。

(単位:%)

	全 体	障がいに対する市民の理解を深めるような、啓発活動を積極的に行う	文化活動などを通して、地域の人々との交流を活発にする	気軽に何でも相談できるような体制を充実する	健康づくりや医療面での支援サービスを充実する	自宅で受けられる支援サービスを充実する	施設に入所、通所して受けられる支援サービスを充実する	障がいのある人の生活を支えるヘルパーや職員、ボランティアを育てる	地域に住む人が力を合せて、障がいのある人を支えていく体制づくりをすすめる
全 体	100.0	22.2	8.2	38.7	27.5	30.7	22.8	27.3	16.3
身体障害者手帳所持者	100.0	20.8	7.3	37.0	28.4	34.0	20.2	24.3	13.8
療育手帳所持者	100.0	29.9	11.7	41.6	20.8	22.1	39.0	48.1	29.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	100.0	20.5	8.2	43.8	28.8	21.9	20.5	26.0	15.1

	障がいのある人の雇用を促進し、自立にむけた取り組みを充実する	障がいのある子どもの療育を充実する	放課後・学校休日のケアを充実する	年金・手当などの経済的な支援を充実する	住宅や交通機関など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりをすすめる	その他	特にない、わからない	回答なし
全 体	25.2	20.1	11.2	45.0	30.0	1.7	14.0	16.5
身体障害者手帳所持者	21.7	18.2	7.6	41.9	30.5	1.8	12.9	18.8
療育手帳所持者	33.8	32.5	29.9	57.1	28.6	2.6	7.8	9.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	35.6	16.4	11.0	49.3	30.1	0.0	17.8	11.0